

[第41回]



コスモエンジニアリング株式会社

代表取締役社長 **松林 和宏** 氏

わたしたちは創る エンジニアリングとメンテナンスの融合

コスモエンジニアリング株式会社は、1988年に、都市ガスを中心としたガスプラントの建設事業に実績を有する丸善ガス開発株式会社、石油精製・石油化学関連設備のエンジニアリングと保全に深い経験を有する大協エンジニアリング株式会社、及び配管検査やタンク補修といった分野で強みを有するアジア機工株式会社の3社が統合して発足した会社です。その特長としては、エンジニアリングとメンテナンスの二つの事業分野を有する稀有なエンジニアリング企業として、独自の価値をお客様に提供していることが挙げられます。

社名にコスモという名がある通り、長年グループ会社であるコスモ石油株式会社の製油所メンテナンスに携わってこられ、その経験と知識を活用して、コスモエネルギーグループ外のお客様にも、より良いサービスを提供しておられます。近年、石油関連だけでなく、GX関連の事業に力を注いでおられるコスモエンジニアリング株式会社の現状と将来像について、松林和宏代表取締役社長から、じっくりお話を伺いました。

コスモエンジニアリング 株式会社の沿革

— コスモエンジニアリング株式会社は、1988年に、丸善ガス開発株式会社、大協エンジニアリング株式会社及びアジア機工株式会社が合併してできた会社と承知しております。まずは、この3社の技術と実績が、どのように現在のコスモエンジニアリング株式会社に受け継がれているかについて、ご説明いただけますか。

松林 丸善ガス開発株式会社は、都市ガスを中心としたガスプラントの建設事業を手掛けていたことから、当社のエンジニアリング事業の礎となっております。特に、ガスプラントの建設に実績と経験を有していたことは、当社の強みの一つである水素・二酸化炭素といった工業ガスプラントのエンジニアリング事業の基盤となっています。

次に、大協エンジニアリング株式会社



は、石油精製・石油化学関連設備のエンジニアリングと保全を手掛けており、当社のエンジニアリングとメンテナンスの融合の基礎となっています。また同社は生産現場で培った運転技術を活かし、物流パッケージシステム「ADPAC」を開発しました。ADPACは現在もお客様から非常に好評をいただいております。専門部隊がブラッシュアップを重ねています。

アジア機工株式会社も石油精製プラントに携わっていましたが、大協エンジニアリング株式会社よりも保全の色が濃く、特にタンク補修や配管検査に強みを持っていました。タンク補修技術を活かし開発されたシール材は現在も販売中です。また、配管検査については現在「配管保全技術」として事業を継続しています。特に入管検査補修は人が海底配管内に入管して検査補修をするという難易度の高い工事ですが、アジア機工株式会社から積み重ねてきた経験、ノウハウにさらに磨きをかけているからこそ安全かつ高品質なサービスを提供できています。

これら3社が合併し、現在のコスモエンジニアリング株式会社となりました。3社の主力事業を継承したことにより、工業ガス・石油・石油化学を中心としたエンジニアリング力とメンテナンス力を有する稀有な総合エンジニアリング会社となることができたのだと思います。私たちは、これを「E&Mの融合」（エンジニアリングとメンテナンスの融合）と呼んでいます。

さらに、グループ会社としてエコ・パワー株式会社（現・コスモエコパワー株式会社）が加わったことをきっかけに、2012年からは風力発電プラントにも着手し、これまで90基以上建設しています。また、丸善ガス開発株式会社が培ってきた工業ガスに関わる技術やノウハウを活かし、新エネルギー分野へも積極的に参入しています。特に現在、水素・アンモニア分野については、将来の日本へ大きな価値を提供する成長分野であると捉え、技術開発を推進し、水素供給網の整備に特化した新会社を設立するなど、コスモエネルギーグループの一員として積極的なチャレンジを続けています。

「E&Mの融合」

—— 御社設立の沿革と特長をご説明いただき、ありがとうございました。それぞれ異なる分野に実績と強みを有する3社が合併したことで、パワーアップが図られた、ということなのでしょうね。ところで、「E&Mの融合」が御社の最大の強みの一つだと思うのですが、そこをより詳しくお教えいただけますか。

松林 当社の最大の特徴は、エンジニアリングとメンテナンスの二つを柱として、FS/FEEDを含む設計から調達、建設、試運転、保守まで一気通貫で行うことができるプラントのトータルサポート体制にある、と考えております。製油所のメンテナンス業務を長年担ってきたことで獲得した保全技術があるからこそ、エンジニアリング業務においてもプラントのライフサイクルコストや操作性、メンテナンス性など、ユーザーの立場を理解した設計の提案が可能です。またメンテナンスにおいても、トラブル対応や分析、設備改善などエンジニアリング視点を含めたサポートが可能となります。このようにエンジニアリングとメンテナンスが相乗効果を発揮して付加価値を提供できることが当社の最大の強みであり、多くのお客様から信頼を獲得できている理由だと思います。

—— EPCのみを専門で行っているエンジニアリング会社をお願いするより、御社に仕事をお願いした方が、お客様にとってメリットが大きいということですね。

松林 当社の社員は、コスモエネルギーグループの現場に行って稼働中の設備にかかわる経験を積む機会が多くあります。この現場作業の経験というのは、他のエンジニアリング会社では得がたい経験だと思います。グループ内のプラントにかかわることで得たノウハウや技術を、グループ外のお客様にも還元する、というのが当社の方針です。ベースがコスモエネルギー

グループのプラントにありますので、グループ外のお客様としてはその近隣にプラントを有する会社、何かしらのお付き合いのある会社などを中心にお仕事をさせていただいております。もちろん、グループ外の現場で得た技術力、知見を、コスモエネルギーグループの現場にフィードバックすることもあります。

現在及び将来の事業の柱、GX

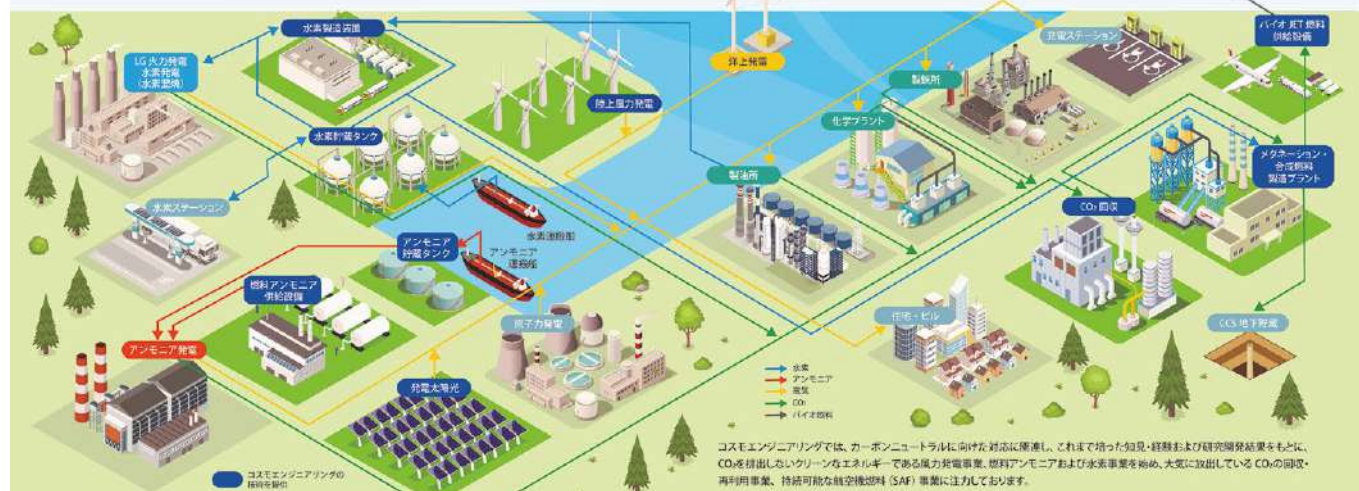
—— 御社の組織図を見せていただいたところ、「エンジニアリング本部」や「保全本部」と並んで「GX本部」がありました。これは、GXが御社の主要事業の一つとなっているということなのでしょう。

松林 カーボンニュートラル（CN）事業については、国内でもコスモエネルギーグループ内で推進するCN関連案件だけでなく、グループ外のお客様からの依頼も数多く受けており、重要な事業と捉え当社としても積極的に参画しています。もともとは、風力発電を主力事業としてきたのですが、風力発電に限定せず、広くカーボンニュートラル事業を実施していこうということで、「GX本部」に発展改組しました。GXに関連することなら何でもやっていくつもりです。

まず、代替燃料に関しては、まだ将来の主役となる燃料が定まっていない状態ですので、当社としては全方位的に技術獲得と他社との連携を進めています。水素に関しては、岩谷産業株式会社様と新会社「コスモ岩谷水素エンジニアリング合同会社」を設立し、水素サプライチェーンの構築に参画していきます。燃料アンモニアについても、既に技術を持つ企業と連携しFSを行っています。また、クリーン燃料の国内製造、海外からの輸入機構が整うまで、しばらくの間はCO₂回収が非常に重要になると考えています。当社はCO₂回収技術も保有していますので、想定されるニーズをうまく取り込んでいきたいと思っています。

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて ～コスモエンジニアリングの取り組み～

2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「カーボンニュートラル」への挑戦。新たな成長戦略にお応えします。コスモエンジニアリングは、ユーザーの立場に立ったエンジニアリングノウハウを蓄積する会社。お客様の目標で計画段階から最適な設計・建設を行い、総合エンジニアリング企業として、ご要望にお応えします。



2050年カーボンニュートラルの実現に向けて～コスモエンジニアリングの取り組み～

グループ内では、これまで取り組んできた風力発電はもとより、昨年からコスモ石油の堺製油所で始まったSAF製造プラント建設のオフサイト工事一式も請け負っていますが、今後のCN関連の引き合いも多く、全ての案件に対応することが困難な状況です。人的リソースが限られている中で、人材確保はもちろんのこと、どのような方法であれば対応できるのか、他社との提携などを含め案件への取り組み方を見直す過渡期であり、重要な経営課題と捉え取り組んでいます。

そのほか、将来拡大を期待している当社の特徴的商品として、前述の配管検査システムや、海外で展開している原油スラッジの減容化などがあります。

配管検査では、配管内外面の欠陥を磁力や超音波を使って、経済的に短期間かつ確実に検知するインテリジェントピグ検査システムを提供しています。現在は、見つかった欠陥は人間が配管内に入って補修していますが、これをロボットで行うシステムを開発中です。

原油スラッジの減容化は、採掘原油タンクの底部に滞積するスラッジから利用可能な油分を分離回収、再原油化しつつ、廃棄量を削減する技術で、環境貢献にもつながると期待していま

す。この技術は産油国に拠点を構える当社アブダビ支店の主力サービスとして展開していきたいと考えています。

社風は、真面目で明るく 風通しがいい

— 御社の社風については、どのように感じておられますか。

松林 当社の理念は「わたしたちは創る」であり、「笑顔」「つながり」「社会」を意識しながら、挑戦し、成長し続けることを大事にしています。真面目で誠実な社員が多く、お客様の要望に最

大限に応えようとする姿勢で業務に取り組んでいます。社員数も400名程度の会社ですので、役員と社員の距離が近いことも当社の特徴の一つです。

私は、盆と正月の月を除いて、国内の全ての事業所を月に一度回るようにしています。その際は、懇親会やランチミーティングを必ず行うようにしていますが、若手社員は非常に元気にやっていますし、中堅・ベテラン社員の皆さんは、いい意味で重石になっています。まとまりを感じる部分も多いですし、社員が直接社長にメールしてきたり、社員が役員と忸度ない議論をしたりしている場面も珍しくありません。風通しのいい会社だと思っています。

松林 和宏 (まつばやし かずひろ)

1965年鹿児島県に生まれる。
1988年3月東海大学体育学部卒業、同年4月コスモ石油株式会社入社。2016年同社堺製油所長、2018年取締役安全技術統括ユニット担当、2019年取締役執行役員、2020年取締役常務執行役員、2022年コスモエンジニアリング株式会社代表取締役社長就任、現在に至る。



— 全ての事業所を毎月回るとおっしゃいましたが、これを続けることは、かなり大変でしょうね。

松林 各事業所を回って、各社員に当社の経営方針を理解してもらうことは、社長としての責務だと思っています。また、トップセールスもありますし、協力会社の皆様とも意思疎通を図らなければなりません。親会社であるコスモエネルギーホールディングスや関連グループ会社との交渉も、私の役割だと思っています。したがって、社長室にいるのは週に1回くらいで、時に知らないうちに社長室の様子が変わった、などということもあります。

バレー選手から社長へ

— 最後に、松林様ご自身のことをお伺いしたいと思います。経歴を拝見させていただいたのですが、体育学部のご出身ですね。

松林 はい。私はコスモ石油の実業団バレーボールチームの選手として入社しました。その後、このバレーボールチームが解散し、私は関連事業部という子会社の統括部署に配属となり、その後営業の仕事をする事となりました。東日本大震災の折には、千葉県市原市にある製油所の再稼働の交渉を地元の市原市役所といたしました。さらに、大阪府堺市の製油所の所長を務めた後、本社で保安担当役員となりました。役員となって4年目に、製油所の稼働率がコスモ石油内の最高記録を更新しました。現職において、技術面では技術担当役員に頼ることが多いのですが、できるだけ現場に行って勉強するようにしています。

— 座右の銘といったものはお持ちですか。

松林 「熱らず（いきらず）、驕らず（おごらず）、昂らず（たかぶらず）」ということを肝に銘じています。私は、短気でお調子者であることを自覚してい

るので、自分を戒めるために机に貼ってあります。「力まない、思い上がってわがままな行動をしない、自慢しない」ということです。

— 本日はお忙しいところ、ありがとうございました。



インタビュー後記

松林様は、元バレーボール選手ということで、大変体格のいい方（身長186cm）でした。小柄な私（身長165cm）と一緒に写真を撮ると、まるで大人と子どものようでしたが、バレー選手としては小柄な方だったそうです。

インタビューの中では、バレーボールの選手から転身して、一般の社員として働かれたご苦労も伺いました。大変参考となるが多かったのですが、今回のインタビューの目的は、コスモエンジニアリング株式会社を多くの皆様に知っていただく、ということだったため、残念ながら割愛せざるを得ませんでした。しかし、「ほとんど社長室にいない社長」という方には、初めてお会いしました。

聞き手：当協会専務理事
前野 陽一



企業データ

社 名：コスモエンジニアリング株式会社
事 業 内 容：エンジニアリング事業・メンテナンス事業・海外事業・カーボンニュートラル関連事業
設 立：1958年11月
所 在 地：東京都品川区東品川 2-5-8 天王洲パークサイドビル
従 業 員 数：387名（2024年3月）
ホームページ：<https://www.cosmoeng.co.jp/>

